

# 景観の変遷とこれから

高橋 毅  
(写真家)

皆さんお疲れ様です。今から美しい瀬戸内海を見てください。



これは香川県荘内半島の紫雲出山の桜です。瀬戸内 11 府県を回ってみて、1 番美しく感じたのはこの紫雲出山です。紫の煙が出ると書く、浦島伝説の場所です。この紫雲出山から見るロケーションが瀬戸内の中で私はナンバー1 ではないかなあと思っております。これは 2000 年に夕焼け桜として全国へ発表しました。現在は夕焼け桜の撮影に朝からカメラの立てる場所がないぐらい、全国からお客さんが来ています。それだけ素晴らしい桜の場所です。



これは紫雲出山でも少し場所が違うのですが、瀬戸の屏風園と呼んでおります。これが詫間湾です。ここが善通寺山。これは朝靄に霞む幻想的な夜明けです。



これが同じ場所からの満月の日です。なぜ美しいかと言えば、ここの島の並びです。この顕在している並びとか、大きさ、形すべてが絵の世界になっています。それからこういう場所というのは他に瀬戸内ではありません。



これが幻想的な今の同じ場所からの夜明けです。瀬戸大橋はこの辺にあります。これが高見島になります。高松はこの辺になります。こういう雲間から夜明けが始まる、ドラマチックな朝です。

同じ場所からの写真です。この下が全部海です。霧の上に山が浮かんでいるのは天霧山です。この左から朝日が出ています。これは瀬戸内、香川独特の風景ですね。こういう霧に包まれた幻想的な夜明けというのは他ではなかなか見られないです。



これは真っ赤に燃える粟島と高見島です。この風景の撮影を狙って30年かかりました。これも紫雲出山の上からですけど、手前が粟島と高見島で、志々島はこっちになります。この絶景の場所で真っ赤な朝焼けをなかなか見ることができませんでした。この時は朝焼けが素晴らしくて、粟島の上に雲がかかっているのが、なかなかのものです。朝焼けはあってもここへ雲を呼ばないんですね。



東京展の時に都会の人が「これが瀬戸内だ」言ったのはこの作品でした。なぜか聞いてみたら青い海、青い空に入道雲が出て、そしてこの漁港に船が帰る、都会の人が描いている瀬戸内というのはこういう風景でした。この撮影に入って入道雲をイメージした撮影ま

でに、7年かかりました。なぜかという、昔は梅雨が明けて7月の下旬に必ず入道雲は海にも山にも出ていたのです。それが最近夏が終わったらすぐ秋の雲になってきます。こういう入道雲が出なくなりました。



これが同じ時の入道雲ですけど、昔はこういう風に良く見れたのですが、今はほとんど見えません。

これは荘内半島の雲と詫間の海岸ですけど、大潮の時です。すごく美しい絵模様です。この場所は鴨ノ越と言いますが、夕日が右に入るためにこの陰影がきれいに入ってくるんです。そんなに大きい間隔ではないですけど、美しい海岸です。

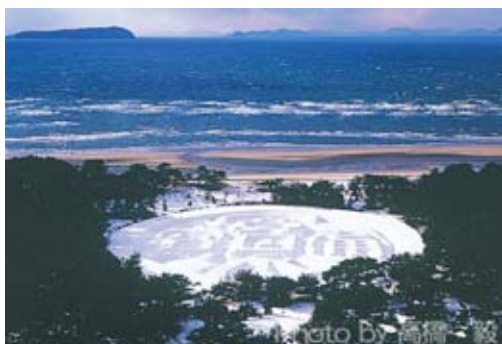


これは屋島の山頂から撮影した女木島です。正面が女木になります。こちらが高松港で、撮影のために約40分間露光しています。その間に備讃瀬戸にはこれだけの船の往来があります。すごいです。



これが観音寺の少し東に七宝山という山があるんですけど、その七宝山から見た瀬戸の海

です。これが蔦島です。これが紫雲出山。少し見えにくいのですが、この真下ぐらいに父母ヶ浜があります。これは雨上がりの夕日に染まる詫間湾の夕焼けです。



これは寛永通宝に雪が来た作品です。最近、香川にほとんど雪は降りません。だから雪の写真香川で撮影すると思っただけで5年か、10年ぐらいみておかないと撮れないです。栗林公園でも雪の撮影をしたいのですが、なかなか雪降らないです。

これがマーガレットです。向こうが栗島です。



直島の円覚寺のツツジです。僕が注目しているのは、7月の中旬過ぎ、国際芸術祭の時に直島はこれだけのツツジの花が咲きます。

これが五色台から見た大槌です。丁度いいロケーションのところに桜と島があって絶景の場所です。

これも五色台です。時間的には30分ぐらい時間をかけています。これが30分ぐらいの間に船の通った航跡です。結構船が通っています。

これを私は瀬戸のオーロラと呼んでいます。風と雨とでですね。だから上の方はオーロラのようになっています。大槌島がここにいます。ここが夕日です。





小豆島の天使の散歩道で、これは夜の撮影です。夜、潮が引いてここへアベックが願掛けに行くんです。その時に懐中電灯をつけて行ってるんですよね。少し高い丘の上からの撮影です。これが屋島で、これは高松の明かりです。これもすごく幻想的な瀬戸内の美しいところです。



これはダルマ夕日といって、冬寒い季節になったらこれが水面に入るか下がると、ダルマになるんです。ダルマは太平洋側でもいろんなところで見えますが、島を抱き込んでダルマに見えるのは瀬戸内海だけです。1年に2回ここを通過していきます。これは3月5日の撮影なんですけど、3月と10月にここを通過するんです。こういうのは快晴の日でなければ見えませんが、瀬戸内ならではのダルマ夕日です。

これは大槌島です。約2時間半の露光です。相当な数、ここでも船が通っています、手前と向こう側と。この光の高さは大型船の光の線になります。小型は下の線になります。





仁尾の海岸の父母ヶ浜です。干潟としては素晴らしい場所で、遠浅になっています。これ、潮が引いたときの夕暮れです。夕暮れの長時間露光によって波を動かしています。そのために幻想的な映像になっています。向こうが葛島の方になります。

これはもう1年に1回あるかないかの父母ヶ浜なんですけど、太陽が沈んでしばらく時間がたって真っ赤に焼けてくるんです。



これが同じ父母ヶ浜。向こうは虹なんですけど、鳥の楽園でこのように沢山の鳥が飛来しています。

大潮の後はこういうきれいな波模様ができます。ここは現在で約800メートルの海岸線で、海から陸までが500メートルあるそうです。



毎月地元の人が30人ぐらい出てゴミ拾いをして、この干潟のこの場所を守っています。だから大潮のときでも美しいんです。こういう人の陰の努力が今みたいな美しい海岸をずっと守ってるんだと思います。



これは観音寺の有明浜です。平成の元年 5 月の中旬ごろの撮影ですけど、これがハマヒルガオです。ハマヒルガオの原生花園と間違え程に美しかったです。これが今から約 10 年前の撮影です。



それが今年はこのようになってきました。ここも昔は観音寺南小学校の生徒さんがずっとゴミ拾いをしていたのですが、最近それをしていないようで、もう荒れ放題ですね、ここの有明浜。海浜植物ですごく有名なんですけど、おいしいですね。こういう美しい有明がほんとのね。無残な姿です。





皆さん見た事ありますか、北海道の能取湖にあるアツケシソウ、サンゴソウとも言うんですけど、坂出の埋め立てにこれがあったんですよ。これがね。平成元年の撮影です。場所はね、王越という所です。五色台の上がり口のちょっと坂出寄りの下の引っ込んだとこなんです。アツケンソウは昔北前船が塩を北海道へ運んで、帰りに積んだ砂の中にあっただけなんです。このアツケンソウがこの塩田跡で成長して、10月下旬にはこういう真っ赤になっていました。今これだけのものが残っていれば、これだけで観光資源になったと思うんですけど、おしいかな、これが平成10年の現実です。もうほとんどなくなっていました。5年前に見たときには、影も形もありませんでした。なんとしてでも、守ってほしかったですね、あのサンゴソウの美しさを。





これは女木島の桜です。私はこの桜植える会の会長をしているんですけど、平成 13 年に観光協会の会長で JR 四国の梅原さんのすごいバックアップがありまして、女木島に現在まで 1400 本の桜を植えています。今年で最初に植えてから 8 年になります。これが契機となって今ではいろんな島に植えています。

これが瀬戸大橋の与島の鍋島灯台に一木で見せろということで、京都の庭師から譲っていただいた桜です。灯台の横に海上保安庁の許可を得て植えました。7メートルあったんですけど、環境のすごく悪い所で最近花もだいぶ悪くなりました。やはり雨の影響と潮風の影響で、いつまで元気に生きるかなと心配しています。



これは男木島です。男木島は地元の方、高校生の方、いろんな方の協力で、今は 30 万個までなったかな、スイセンがきれいに灯台の周囲から丘の上まで咲いています。2月上旬ぐらいが見頃です。みなさん1度行ってみてください。素晴らしいスイセンの島になっています。



先ほど稲田先生が話された志々島の 1988 年の写真です。キンセンカで、私はパッチワー

クの島と呼んでいます。このようにパッチワークになっているんです。すごく美しくて、当時は何度も行っていましたが、これが港側から写したものです。



これが4年前の姿です。

稲田先生の写真にもありましたけど、これは昨年5月に撮影しました。私もメンバーで、オーナー制でここへこういう風にマーガレットを植えています。今年も5月30日に手入れだったんですけど、とにかく1年に2回3回手入れしていても雑草に負けるんです。雑草はすごく勢いがあって、これだったら木の花の方が手入れが少なくて済むのでいいんじゃないかなって、最近そんなことを思っています。以上です。



本城) 高橋先生ありがとうございました。レンズを通した本当に美しい瀬戸内海が写っていただきました。我々は2つの目で見ていますが、このような美しい所を知らないで過ごしているように感じた次第です。なにか質問していただければありがたいのですが。多田先生、有明浜のNPOの活動はありませんでした？

多田) 岡市先生はよくご存知かも知れませんが、有明浜は香川県の水辺を守る会というNPO法人ではなかったかと思います。そういう団体の方が、今でも観音寺小学校の生徒さんたちとあそいで一緒に植えていて、写真に写っているよりも海に向かってもう少し東側の方には海浜植物が植わっていると思います。

本城) 努力をすればこちらの方にも戻ってくる可能性あるでしょうね？

多田) 詳しくないので分かりません。

本城) どうぞ。

三好) 伊吹島の三好です。有明浜の海浜植物ですが、一度ですね、高潮に遭って、全滅したんですよ。その前の写真ではないかなと思うんですよ。その時は、資料館まで水がきまして、古文書関係もだいぶ潮に遭って被害を受けたんですよ。多田先生が言われているように、小学生たちと一緒に復活、復元しようとして活動しています。

本城) そのうち高橋先生のカメラできれいな写真が撮れるように。

高橋) 確かに高潮の前の作品ですね。

三好) そうです。だから全滅になってまた復元しようということで、今活動しています。

高橋) そうですか。

本城) 他にございませんでしょうか?“島に花を”っていうのはいいですね。それぞれの島がきれいになっていけばいいのです。稲田先生によって紹介されたのと同じ写真が高橋先生からも出ました。パッチワークの花畑がなくなっているという話ですよ。これは人口の問題と関係があると思います。

氏名不詳) 高橋先生、素晴らしい写真どうもありがとうございました。それで私の質問は、先生はこの1枚の写真を撮るのに30年通われたとか7年かかったとかおっしゃっていたんですけど、普段先生は1年で例えるとどのくらい撮影の時間に使われているのでしょうか?

高橋) ほとんど毎朝です。今頃は最も朝が早いので3時頃に起きて、日の出の4時頃にはもう現場に行きます。それで撮影が終わって9時には自宅に帰り、1日中スタジオの仕事をし、夜7時ぐらいからまた夜の撮影に出かけます。もうその繰り返しです。それでその場所場所に頭の中でイメージを作って、ここは霧が似合う、雨が似合う、太陽が似合う、そのイメージを作って天気図を見ながらその現場現場へ行っています。そういう風にして撮影場所に行くんですけど、なかなかいい表情いうのに巡り会えません。

本城) 先生、海の方であればそれで良いのですが、先生には山の写真もありますよね?そうしますと、スタジオの方はどうなってるんですか?

高橋) スタジオは息子もいますから、その辺は大丈夫なんです。山へ入る場合、モンゴルあたりの天気図を参考にしています。それによって1週間後に山はこうなると判断し、入山しています。